

令和 7 年度
第 1 回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

1 日 時	令和 7 年 7 月 1 1 日（金） 午後 2 時 1 5 分～午後 5 時 0 0 分
2 場 所	教育委員会室
3 議 題	（１）令和 7 年度における点検・評価の対象及び方法について （２）各施策についての点検・評価
4 資 料	次第、さいたま市教育行政点検評価委員会設置要綱、座席表、出席者名簿、令和 7 年度点検評価委員会審査日程、令和 7 年度教育委員会の点検・評価報告書（案）、令和 6 年度教育行政方針
5 出 席 者	別紙出席者名簿のとおり
6 議 事	＜開 会＞ 1 4 時 1 5 分開会 ＜会議の公開＞ 会議を公開することを決定した。傍聴者希望者はなし。 議題（１）令和 7 年度における点検・評価の対象及び方法について 事務局から、令和 7 年度における点検・評価の対象及び方法について説明後、各委員へ意見を求めた。 ※意見なし 事務局の原案のとおり、評価の対象は「令和 6 年度教育行政方針」に記載された 4 6 事業とする。 評価の方法は、「令和 7 年度教育委員会の点検・評価報告書（案）」における教育委員会の自己点検・評価の記載に沿って各所管課から説明を行い、それに対して委員が意見及び質疑を述べる方式とする 議題（２）各施策についての点検・評価 令和 7 年度教育委員会の点検・評価報告書「Ⅲ 点検・評価の結果（令和 6 年度事業対象）」において、「令和 6 年度の教育委員の活動状況」及び「1 1 2 年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成」の 9 事業（事業名は別紙「令和 7 年度さいたま市教育行政点検評価委員会日程」参照）について所管課より説明を行った後、委員からの意見及び質問を受け付けた。 【主な意見及び質疑】 「令和 6 年度の教育委員の活動状況」 ＜橋本委員＞ 教科用図書調査研究会に教育委員が出席しているが、どの段階の会議なのか。 ＜教育総務課＞ 教育委員会会議で採択をするが、その前の勉強会である。各学校や研究会で検討されたこ

令和7年度
第1回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

とを教育委員に事前に説明を行っている。

＜橋本委員＞

検討会議が済んで2～3種類の教科書が選定された後の話ということか。

＜教育総務課＞

選定は教育委員会会議で行う。

「1 12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成」

(1) 新たな指標を踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の推進

(2) 「さいたま市スマートスクールプロジェクト（SSSP）」の推進

(3) 情報活用能力をはぐくむプログラミング教育「さいたまモデル」の推進

＜橋本委員＞

プログラミング教育のコンテンツの内容を具体的に教えていただきたい。

＜教育課程指導課長＞

「情報教育学習支援ソフト」については、プログラミング言語を用いてホームページを作成するもの。「プログラミング教育推進プロジェクトチーム」においては、例えば、センサーキットを用いたプログラムを組む学習や、将棋の駒を動かすプログラム等がある。

(4) 市立高等・中等教育学校の更なる特色化・魅力化の推進

＜平澤委員長＞

イノベーションプログラムの派遣について規定数に満たなかったとのことだが、最小催行人数は何人で設定されているのか、また、費用負担が全額自費なのか教えていただきたい。

＜高校教育課＞

最小催行人数は10名で設定していたが、2～3名の応募だったため実施がかなわなかった。費用負担については、さいたま市の補助金が20万円、自己負担が60万～70万円である。

(5) リニューアルした館岩少年自然の家を活動拠点とした自然体験活動の推進

＜橋本委員＞

今年の参加申し込み状況を教えていただきたい。

＜館岩少年自然の家＞

手元に資料を持ち合わせていないので確認する。

＜橋本委員＞

自分の学校の割り当ての時に、何らかの都合で参加できない児童が毎年いると思うが、さいたま市の児童にとって館岩は共通の思い出として大切なものであると考えてるので、本人からの申し出があった場合には、優先的に受け入れるよう配慮をしていただきたい。

令和 7 年度
第 1 回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

<平澤委員長>

体に障害がある児童生徒の参加について何か配慮はされているか。

<館岩少年自然の家>

可能な限り参加していただきたいと考える。事前に学校と保護者の方、児童生徒本人と相談をしていただいた上で、何ができるか共有し、全体の活動が難しい場合には職員が付く等の対応をしている。また、冬場に関しては、スキー活動が多いのだが、そりを使ったりして少しでも雪に触れる機会を増やしている。今後も様々な関係団体等のご意見をいただきながら、プログラム開発を行っていく。

<平澤委員長>

「体験の風をおこそう」運動について、今後、連携協力をしていただける企業・団体を増やしていく働きかけをする予定はあるのか。

<館岩少年自然の家>

令和 5 年度より取り組み、今年度 3 年目となり企業・団体数は増えてきている。今後は増やしていくだけではなく、まずはそれぞれの事業での連携を強固にしていくことが目標である。新たな課題が出てきた際に、また新たな協力企業を考えていく。

<平澤委員長>

関係団体・企業からはどのようなリアクションや感想があるか。

<館岩少年自然の家>

年 3 回の実行委員会を開催し、「もっとこうした方がよい」「もっと協力できる」等様々な協議を行い、それぞれの事業がどこでその強みを生かせるか、手上げしていただいている。

<橋本委員>

建物がリニューアルされてバリアフリーが進んだことで車いすでの移動はスムーズになったのか。

<館岩少年自然の家>

リニューアルしたとくさ館については、建設当初に戻すような工事であった。後から建てたからまつ館については、バリアフリーが進んでおり車いすで部屋まで入れるようになっている。

(6) 中・高の連続性と強みを生かした教育の推進

<平澤委員長>

大宮国際中等教育学校の探究発表会について、視察に来た市内外の 140 人について、内訳を教えてください。

<高校教育課>

手元に資料を持ち合わせていないので確認する。

(7) 探究的な学びを追求する「さいたま STEAMS 教育」の推進

(8) 新カリキュラムを踏まえた「さいたま市小・中一貫教育」による教育の質の向上

令和7年度
第1回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

＜橋本委員＞

教科担任制について、とても良い取り組みであるので引き続き推進していただきたい。ただ、普通教室はエアコンが設置されているが、現状でエアコンが設置されていない特別教室を使用する教科の専門教員もいると思うので、進めていく上でそのような配慮もしていただきたい。

＜平澤委員長＞

教科担任制について、全ての教科で実施しているのか。

＜教育課程指導課＞

学校規模や教員配置の状況を踏まえ、各学校で適切に対応をしている。

＜平澤委員長＞

全教科を通して見たときに各児童の得意不得意が見えてくることもあるので、教員間で情報交換を大事に連携していただきたい。

（9）学習状況調査等の教育データを利活用した教育支援の充実

＜平澤委員長＞

学習状況調査のデータ活用について、分析調査にプロの目が入った方が確実であると思うので、ぜひ大学や関係機関との協力を今後も進めていただきたい。

（全体の意見）

＜平澤委員長＞

タブレットを使用した授業が増え、子どもたちが文字を書く機会が減っていると感じるが、一日の中で文字を書く時間を設ける等、何か対策は考えているか。

＜教育課程指導課＞

書く指導もしており、その場に合わせてどちらも大事にしている。

＜平澤委員長＞

アンケート結果について、肯定的な意見についての記載が多いが、肯定的ではなかった意見も重要視していただきたい。

＜休憩・担当所管入れ替え＞

「3 人生100年時代を輝き続ける力の育成」の7事業（事業名は別紙「令和7年度点検評価委員会審査日程」参照）について所管課より説明を行った後、委員からの意見及び質問を受け付けた。

【主な意見及び質疑】

（1）時代のニーズを踏まえたさいたま市民大学事業の推進

（2）子どもの学び・親子の育ちの支援の充実

令和7年度
第1回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

(3)「知のひろば」図書館を通じた生涯学習環境整備の推進

<平澤委員長>

電子書籍の利用が増えたとあるが、利用は好調であるか。

<資料サービス課>

電子書籍の貸し出し数は、安定した利用状況である。

<平澤委員長>

収蔵ジャンルは満遍ないか。

<資料サービス課>

購入できるものがある程度限られており、文字が主であるものが中心である。

(4) 科学館・博物館・美術館を通じた生涯学習環境整備の推進

<平澤委員長>

図書館、科学館、美術館全てに共通するが、例えば大河ドラマや流行りのアニメや漫画など、世の中のトレンドを取り入れる工夫はしているか。

<博物館>

前年度にテーマを決めるので難しい点もあるが、見沼くらしっく館では大河ドラマに関連した展示を行っており、来館者が増えている。

<科学館>

月面着陸に成功した最新の話題について情報を取り入れて講演会を実施するなどしている。

<美術館>

展覧会の準備は3年前から進めるため、流行を取り入れた企画がなかなか難しい状況であるが、非常に重要であると考え。企画展は企画会社から購入することもあるが、自身で企画する場合もある。教科書に載っている画家を取り上げたりと工夫をしている。

<資料サービス課>

企画展示等ではトレンドを取り入れているが、非常に人気ですぐに貸し出されて常に出払ってしまっている状況。

<生涯学習総合センター>

大河ドラマに関連した歴史関係の講座を実施していることが多い。

<平澤委員長>

興味を持ってもらうきっかけとして、SNSを活用して流行りを絡めて追っていくと良いのではないかと考える。

<橋本委員>

博物館の老朽化について、非常に古くバリアフリーもなっていない。耐震性は問題ないとのことだが、早期に新しい建物にしていだけないか。また、デジタルコンテンツは4年前に比べてとても充実してきた印象がある。今後さらに増やしていっていただきたい。

<博物館>

令和7年度
第1回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

アクセス数が多かったコンテンツについてどのようなものを扱うと良いのか等検証をしていく。

(5) さいたま市生涯学習コンテンツの魅力化

＜橋本委員＞

デジタルコンテンツについてショート動画等の活用を検討していただきたい。

(6) 安全・安心に向けた公民館・図書館リフレッシュの推進

＜橋本委員＞

大宮図書館の学習スペースが常にいっぱいであるので研修室の活用はできないか。

＜資料サービス課＞

1階の研修室は個室になってしまい、安全・安心の面から開放は難しいと考えている。

＜橋本委員＞

大宮図書館の職員は民間委託だと思うが、大変接遇もよい。図書館の次世代の職員の育成について具体的にはどのようなことなのか伺いたい。他の図書館で活用するということもあってよいと思うがいかがか。

＜資料サービス課＞

大宮図書館のみ指定管理である。次世代の職員の育成については、大宮図書館以外の施設を対象としており、図書館司書等の資格を熱意のある若者にとってもらえるように取り組んでいる。

(7) 次世代に向けた歴史文化資源の保存・継承・活用

＜平澤委員長＞

市の樹木が誤って切られたことがあったが、適切に保存、継承していくことが必要。維持や所有の負担もかかると聞いているが、指定したからには市や所有者は管理しなければならないもの。費用が工面できない、若い人が出て行ってしまっている現状もある。

＜博物館＞

地域では世代交代や核家族化によって所有者や継承する方々が遠方のほうに引っ越してしまっており、大きな課題となっている。新たな住民を取り込み地域の方々やあらゆる団体に文化財をまずは知っていただき、関心を持っていただき、あわせて一緒に守っていく体制ができるよう取り組むことを、今回の計画で発表させていただいている。また、庁内においても横断的に都市局や建設局とも連携を取り合いながら取り組んでいきたいと考えている。

(全体の意見)

＜平澤委員長＞

広報についてはタイミングがとても大事である。一番効果的な時期、ターゲットを絞って広報をするなど検討していただきたい。

令和7年度
第1回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

<休憩・担当所管入れ替え>

「4 スクール・コミュニティによる連携・協働の充実」の4事業（事業名は別紙「令和7年度点検評価委員会審査日程」参照）について所管課より説明を行った後、委員からの意見及び質問を受け付けた。

【主な意見及び質疑】

（1）「子どもが主役」となるコミュニティ・スクールの推進

（3）チャレンジスクールを通じた学びの輪・地域の輪づくりの充実

<橋本委員>

チャレンジスクールの用具購入費用が2万円以内とされているが、値上がりしているなかで金額を上げていただけないか。

<生涯学習振興課>

備品として2万円で設定しているが、現在見直しを行っているところ。

<平澤委員長>

チャレンジスクールのボランティア募集について、埼玉大学以外に他大学はあるか。

<生涯学習振興課>

埼玉大学はオンライン、埼玉県立大は対面、ほか県内大学と専門学校13校にチラシ配布をしている。

<平澤委員長>

ボランティアの参加に繋がっているのか実績は分かるか。

<生涯学習振興課>

何を入りにしているかは把握していない。

<平澤委員長>

入口を調査することで効果的な募集活動につながるのではと考える。

<橋本委員>

大学生の方がダンスサークル等開催してくれたり、別の友達を誘って来てくれることもある。上手く声かけができれば残ってくれた学生さんから協力してくれる方が広がっていくこともあり、大変ありがたく思っている。引き続き学校側には働きかけを続けていただきたい。

（4）子どもを見守る学校安全ネットワークの推進

<橋本委員>

ボランティアリーダーについて、PTAも対象にしていっていただけないか。

<健康教育課>

学校と調整しながら検討していく。

令和7年度
第1回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

＜平澤委員長＞

こども避難所の数が減っている点について心配であるが、今年度の状況はいかがか。毎年更新されているのか。

＜健康教育課＞

コロナ禍や高齢化等で減少もあるが、高い水準を維持していると思う。

＜橋本委員＞

協力を得るための難しさもあるだろうが、子どもへの声かけ事案の防止等のためにも尽力いただきたい。

＜閉 会＞ 17時00分閉会

【問合せ先】教育委員会事務局管理部教育政策室 829－1626